

文化高知

2003年9月 NO.115



「葛かずら」
西森藤子

〈もくじ〉

これって、ホラ吹き？	追田敏高	2
ジャズタップとは、音や動きで会話すること②	川村隆英	3
「詩人たちの絵」高知展に寄せて	窪島誠一郎	4～5
俄という「愚」	佐藤恵里	6～7
子どもはモナ・リザをどうみるか	上野行一	8～9
富士通コンコード・ジャズ・フェスティバル	青山清水	10～11
『「文検」試験問題の研究』を読んで	浜田清次	12
ミュージカルワークショップの三日間		13
風俗歳時記・風伯		14～15

(財) 高知市文化振興事業団

これって、ホラ吹き？

迫田敏高

高知に赴任して一年が過ぎた。この間、色んなところを回って、素晴らしい自然、美味しい酒・肴を楽しんでいる。地元の方との交流も愉快である。日増しに高知が好きになる。そうした中で見つけた、まずは驚き、次いで思わず笑ったオブジェが三つ。

最初の驚きは、赴任してきた当日。空港に降り立ち、澄み切った空の向こうを眺めると、山の頂に何故かヨーロッパの古城が……今流行の「なんでだろう?」である。なんで高知にヨーロッパ?後で分かったのが三宝山。今、私は彼の古城を高知のノイシュバンシュタイン城(あの東京デイズニールランドのシンデレラ城のモデルになったドイツの有名な城)と紹介している。

続いての驚きは、今年のゴールデンウィークのこと。友人を伴い、四

万十川の川くだりを楽しんだ後、川沿いに上流を目指していると、「元祖こいのぼりの里」十和村に出た。そこでこのこいのぼりの川渡しのスケールの大きさにも驚いたが、でも頭の中のどこかで、「なんでだろう?」。なんで高知に鯉?そんな思いを抱きつつ翌日佐賀町付近を走っていると、こいのぼりならぬ「かつ



おのぼり」がゆうゆうと泳いでいるではないか。これだよ、これ、高知は、「くじらのぼりはどこだあ!」。

驚きは、高知市の足元、いや頭上にもあった。東京から、偉い人が来るといので、事前に商店街を視察

していたところ、ひろめ市場の入り口で、ポーツと上を眺めると、なんと、棒高跳びの「鳥人ブブカ」が浮いている。「なんでだろう?」。だれに聞いても答えは分からない。でも、やるんだなあ、高知の人は。

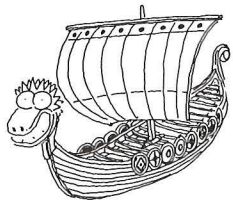
こんなことを書くと、「お前は、高知のことを馬鹿にしているのか!」とお叱りを受けるかもしれない。とんでもない!私は心底、驚き、純粋に面白がっているのである。私の感性を強く刺激するのである。高知には、何かとんでもない魅力がある、そう思わざるを得ない。だれしもこれ位の事は思いつくかもしれない。だが、「マジで作るか?」と思うのだ。そこが、土佐人の持つある種の気質なのではないか。

私は、こうした一連の驚きの裏に高知の人々の遊び心を感じる。「おらんくの池には、潮吹く魚が泳ぎよる」。太平洋という大海原と世界最大の哺乳動物鯨を我が物と言う、こんな大言壮語と遊び心が、面白い文化を生み出しているのではないか。高知の漫画文化もその一つであろう。私は、そうした高知の持つ文化、財産を最大限活かしていつてはどうかと思っている。

長引く不況で、高知県もご多分に漏れず元気がない。よそ様と同じこ

とをやっていたのでは、中々浮かび上がってくるのは難しい。ここは思い切って、自分たちの魅力を活かして、みんなをびっくりさせるようなことをやってみてはどうだろう。あの、坂本龍馬もみんなをあつと驚かせるのが好きだったに違いない。

今年、よさこい祭り五十回目の記念すべき年。県外からもたくさん観光客が来る。そんなときに、「高知の顔」のはりまや橋周辺が元気がないので忍びないということ、漫画で街を飾ることにした。この際、鏡川にはゴンドラを浮かべ、高知城では毎週お城祭りをやり、よさこい踊りもエレクトロカルパレード並みに飾り立ててはどうか。そうだ、いつそのこと、高知県全体をひとつのテーマパークにするというのはどうだろう。高知の人ならやれると思う。観光立県目指すなら、こればあ、こじやんと大風呂敷広げにや、いかんぜよ。



さこだとしたか/日本銀行高知(支店長)

ジャズタッピング、音や動きで会話する②

川村隆英

タップダンスと聞いて、ほとんどの人がイメージするのは、「バンドワゴン」「イースターパレード」等のMG M映画のスター、フレッド・アステアに代表されるような、シルクハットに燕尾服、そしてステッキを持って踊るというものだと思いますが、こういったスタイルは「クラシカルタップ」と呼ばれるもので、コンテンツポラリィダンスやモダンダンスと呼ばれる創作ダンスのように、タップダンスの中に意味やストーリーを持たせる「モダンタップ」と呼ばれるものと並び、「シアタータップ」というカテゴリーで称されます。

そして今回の高知ライブのように、私がダンサーであると同時にミュージシャンとして演奏する「ジャズタップ」というのは、「リズムムタップ」というカテゴリーで称されています。もっと分かりやすく説明しますと、

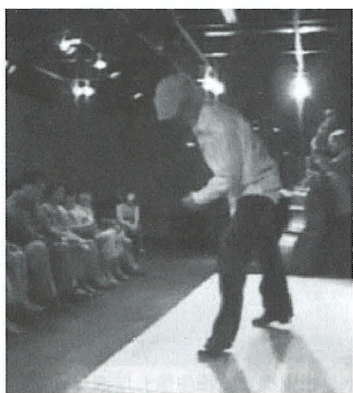
ジャズという音楽をピアノで演奏する人をジャズピアニスト、ベースで演奏する人をジャズベーシスト、タップシューズを履いて、そのタップシューズで床を打ち鳴らして演奏する人をジャズタッププレイヤーと呼ぶのです。

ご存知の方も多いいと思います。ジャズという音楽は、こういう風にならないといけないというものではなく(もちろん、ルールはありますが)、ある曲を題材に自由に即興で演奏するもので、録音や録画でもしなければ、二度と聞くことも、観ることもできないのです。もちろん、全部譜面に書き写して(タップの場合はステップを作って)演奏すれば、ジャズっぽく再現できるかもしれませんが、もはや、それはジャズという音楽ではなくってしてしまうと思うのです。この私の考えに異論をお持ちの

方もいらつしやるでしょうが、私のジャズ観、ジャズタップ観はそういうものです。

曲に関しても、ジャズの曲というものも存在せず、あくまでもジャズミュージシャンがよく取り上げる曲であったり、ジャズミュージシャンが書いた曲であるというだけで、自由なものなのです。実際、今回のライブでも「大きな古時計」や「靴が鳴る」というトラディショナルな曲でも踊り演奏しました。自由で、二度と再現できないものだからこそ、その一瞬、一瞬がドラマになると思うんです。

私のジャズタップの先生で、ドクター・ジミー・スライドという、タ



ップの世界で神様と呼ばれ、伝説になつていらっしゃる方がアメリカのボストンに住んでいるのですが、彼がいつも口にする言葉が「ジャズタップにおいて、ステップは何の意味も持たない。重要なのは、音を楽しむことで、音や動きで会話することだ。それはプレイヤー同士だけでなく、お客さんと一緒にカンパセーションすることだ。そうすれば、おのずとハッピーになる。音楽やダンスは楽しいものだ」というものです。

受け売りですが、ジャズタップとは、そういうものだと思います。私は、彼にはまだ遠くおよびませんが、その楽しさをお客さんと分かちあいたいと思います。これから頑張りますので、皆さん応援してください。かわむらたかひで/ジャズタップ(プレイヤー)

「詩人たちの絵」 高知展に寄せて

窪島誠一郎



九月二日から高知市文化プラザの市民ギャラリーで「詩人たちの絵展」がひらかれる（二十六日まで）。村山槐多、宮澤賢治、高村光太郎、北原白秋、草野心平、ヘルマン・ヘッセ、ジャン・コクトー……日本の近現代に活躍した詩人十三名にヨーロッパの代表的詩人二名を加えた総勢十五名の、ペンならぬ絵筆で描かれたもう一つの「詩人の世界」を堪能できる興味深い展覧会である。

もつとも、この展覧会を一巡すると、いったい詩人と画家との境界線はどこにあるのだろうかという疑問をもつ鑑賞者も少なくないにちがいない。それほどかれらの絵は、とても詩人の余技などという領域にはおさまりきれない、あふれんばかりの「絵心」「詩心」にみちいて心惹かれる。いったい画家の絵と詩人の絵を区別することなどできるのだろうか。

うか。

もちろん詩人の描く絵は、画家たちのそれにくらべていわゆる対象の描写や作画の技法に多少粗削りなところがあることはじつとである。色彩の明度や濃淡、あるいは描線の確かさといった点についても疑義を呈する人は多からう。しかし、そうしたきゆうくつな作画の約束ごと一切を取りはらって、凡そ技法とか画法とかいった概念に束縛されない、い、かえれば、「絵の本質」とでもいべきものがかれらの絵にはあるように思われる。つまり詩人たちの描く絵には、絵をどう描くかという問題ではなく、どれほど自分が絵を描きたかったか、あるいは絵を描くことに没頭したかったかという、まがみなぎっていて魅力的なのである。たとえば大正八年二十二歳五カ月

で夭折した村山槐多の「稲生像」や「猫を抱ける裸婦」をみればそれがよくわかる。

「稲生像」は槐多が府立一中時代に恋した一級下の美少年稲生潔を描いた水彩画だが、少年槐多の青い性への願望と、自らの人間宣言とでもいっていい、青春の気概にあふれていて胸がときめく。青々と剃りあげられた潔の坊主頭、ちよつと憂いをふくんだ伏し目がちな横顔、槐多は潔をプリンスとよび「あなたはベルサイユ宮殿に住んでいる人か、巴里人が花火か絵か音楽か……」という有名なピンク色の恋文を送るが、無情にも潔からは返事がこなかったという。黒い線でふちどられた潔の相貌には、そんな薄情でクールな恋人への何ともやるせない抗議と悲哀の感情がこめられていてセクシイなのだ。

また、槐多の木炭デッサン「猫を抱ける裸婦」も、いかにも詩人槐多の妖しい感性を匂わせる作品だ。豊かな裸女の胸に抱かれた猫の視



村山槐多「稲生像」信濃デッサン館蔵

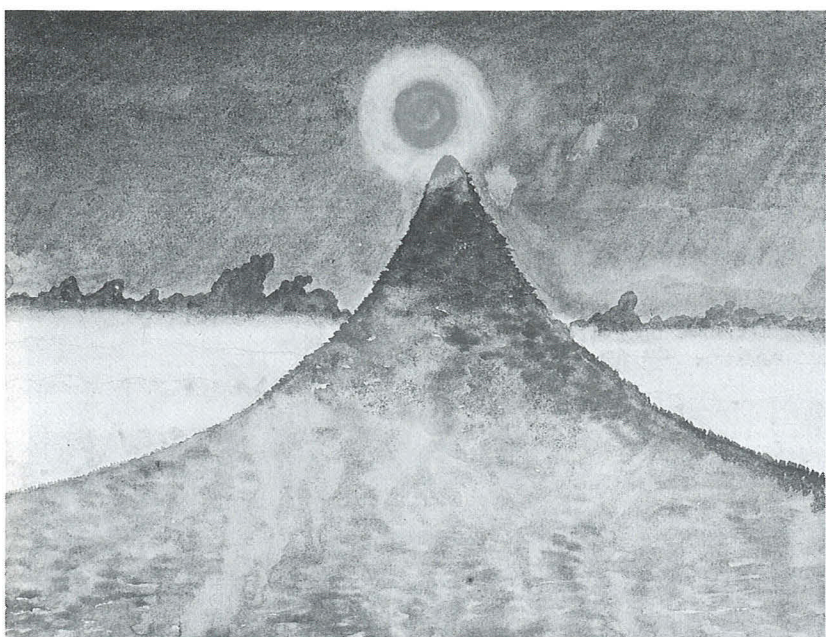
線は、なぜか女の視線とはまったく異なった方向にむけられている。いや、猫の眼はこの絵を描いている槐多自身にむけられていて、槐多は女を描きながらひそかに猫と対話しているようにみえる。猫の毛と裸女の肌の微妙なふれあいを想像させる官能的な画面は、やはりあの名詩「おねえさん裸になつてくさい」をのこした槐多ならではのものといつていいだろう。

槐多と同じ一八九六年に生まれ三十九歳で他界した詩人宮澤賢治の「日輪と山」にも注目したい。生涯に賢治がのこした絵は約十点ほどといわれているが、そんななかでもこの絵は詩人賢治の魔的世界をうかゞわせるにじゅうぶんな傑作である。まるで女の乳首でも思わせるように響曲がきこえてくるようで胸がおどる。

要するに、あらためて気付くことは、こゝにからだ詩人の絵は画家の絵にくらべて何倍ものびやかで自由な創造力にあふれているということだ。何ものにも縛られない、色彩と線の天空へとはたく空想の翼をもっていること。同時に、どの詩人の絵にも「絵を描く欲び」と「絵に遊ぶ欲び」がじゅうまんしているとしてもいいから、か。冒頭にいった「絵の本質」、幼な児のような「作画への欲求」というのがそれなのである。

いくつもの卓^すれた「自画像」をのこした詩人ボードレールが散文詩「描かんとする欲望」のなかで、詩画両道をあゆむ詩人の心境について「人間としては恐らく不幸である。さりながら芸術家としては願望に身を裂かれることこそ何という幸いであろうか」とうたっているのは有名なが、どうやら今回のこの高知での「詩人たちの絵展」は、かれらの絵の前に立つ我々鑑賞者のほうにも、「二つの願望に身を裂かれる幸せ」を味わせてくれそうな気がするのである。

くぼしませいいちろう／「信濃デッサン館」「無言館」館主



宮澤賢治「日輪と山」(仮題)

©林風舎

エロティックに尖^{とが}った山の頂きは、賢治が生まれ育った花巻からみた岩木山で、山頂をそめる日輪の光は、さしづめ賢治の「銀河鉄道の夜」や「風の又三郎」がもつ異界から射しこんでくるナゾめいた一すじの黎明のようでもある。

それと、立原道造のパステル画。立原道造といえば「ゆふすげびとの

歌」や「萱草^{わすれ草}に寄す」など数多くの恋愛歌で知られる哀愁詩人だが、立原もまたその二十四年という短い生涯に詩の分身とでもいべき多くの絵をのこした。そして立原の場合、その絵の大半はパステル画だった。

出品されている「町の風景」は、立原の出生地である東京日本橋界隈の移ろいゆく市街風景で、もう一点

の「午後の山」はたぶん信濃追分ですごした一夏の思い出を描いた絵だろう。どちらもパステル独特のまろやかな色彩とたくみな構成員、一見パウエル・クレイを思わせるような寓話的な造形力を垣間みせていて離れがたい。二つの絵の前に立つと、だれの心にも立原の詩「パステルはやわらかし。うれしかりほのかなる手ざわりは。うれしかりパステルの色あひは」の一節がよみがえるにちがいないのである。

ヘルマン・ヘッセやジャン・コクトーといった西欧詩人の水彩画も面白い。ヘッセの絵は精神病を病む妻の治療のために描かれたといわれるが、その一見平明にすぎるカラフルな風景画には、晩年「私は絵を描く欲びを発見した」と語っていたヘッセ自身の作画への深い慈しみが感じられる。またコクトーの絵も然り、美術家であり音楽家であり舞踊家であり、かつ小説家でもあったコクトーの、その多才の行きつくところが今回展示されているコケトリイな心象画であったのだらう。「私はいつも頭の中でデッサンしている」というのが口グセだったコクトーらしく、一見絵筆のおもむくま、に描かれたような奔放な造形群からは、コクトーが終生奏でつづけていた夢幻の交

俄という「愚」

佐藤恵里



七月末、岐阜市の岐阜女子大でわか学会が開かれた。この学会は俄の研究と保存振興をはかるための全国組織で、会員として佐喜浜、美濃、博多、広島県甲山町など各地の保存会関係者が参画しているのが他学会と異なる特色といえる。第八回の今回の内容は研究発表二題と、早稲田

大学名誉教授神保五彌先生の講演「江戸戯作と俄・茶番」、及び美濃俄の奏演であった。

美濃の俄は馬路村とともに今年度のサントリー地域文化賞を受け、振興会の磯部勲会長は賞金二百万円で一層恵比寿顔になっている。披露の「鵜の反抗」で鵜のウタローは鵜匠

と岐阜市長に勤務拒否を宣言する。観光の目玉の長良川鵜飼の主役は自分なのに鮎を吐き出すばかりで、「儲けはひとつもねえわな」。鵜匠に首を綱で引かれたウタローこと磯部会長の出立ちは、黒いゴミ袋を頭から足元まですっぽりまもって水掻を履き、ボール紙で作った嘴を鼻にかけるといってご苦労千万なものである。「大の男がこの暑いなか、俄じやいうて、たわけたことを」というボヤキがアドリブの一つだった。

この日の岐阜は梅雨明けで、会場の高温クーラーも加わり、みる側も大汗かいて笑ったのだったが、あとで、谷崎潤一郎「刺青」の書き出しを思い出した。

其れはまだ人々が「愚」と云ふ貴い徳を持つていて、世の中が今のやうに激しく軋み合はない時分であった。

七月末、岐阜市の岐阜女子大でわか学会が開かれた。この学会は俄の研究と保存振興をはかるための全国組織で、会員として佐喜浜、美濃、博多、広島県甲山町など各地の保存会関係者が参画しているのが他学会と異なる特色といえる。第八回の今回の内容は研究発表二題と、早稲田

大学名誉教授神保五彌先生の講演「江戸戯作と俄・茶番」、及び美濃俄の奏演であった。

美濃の俄は馬路村とともに今年度のサントリー地域文化賞を受け、振興会の磯部勲会長は賞金二百万円で一層恵比寿顔になっている。披露の「鵜の反抗」で鵜のウタローは鵜匠

と岐阜市長に勤務拒否を宣言する。観光の目玉の長良川鵜飼の主役は自分なのに鮎を吐き出すばかりで、「儲けはひとつもねえわな」。鵜匠に首を綱で引かれたウタローこと磯部会長の出立ちは、黒いゴミ袋を頭から足元まですっぽりまもって水掻を履き、ボール紙で作った嘴を鼻にかけるといってご苦労千万なものである。「大の男がこの暑いなか、俄じやいうて、たわけたことを」というボヤキがアドリブの一つだった。

「江の島」の生き残りではあるまいか。近世中期に興ったという俄は現在全国で約三十カ所の継承が確認され、その殆どは祭りの出しものであり、多く地域の若者の管掌になる。年に一度の祝祭空間で、それは彼らの無礼講であり、同時に祭りを景気づけの遊撃手でもある。身体が丸ごとの

家たちの「正義」はこうした愚の自覚とは程遠い。振り返って、かくいう私どもはどうか。「笑い」は大方テレビになっってしまった。それも大方一人で見ると放送用語規制が布かれ、タレントの内輪話に終始する笑いにナンセンスも社会性もない。「一億総白痴化」と大宅壮一が喝破して「一億総評論家」という標語も出、以来随分時が経ったが、この痛烈な警句が今の現実において時代遅れだとは決していえないだろう。己れの愚は多少なりとも識っているが、他者の愚により敏感で、「馬鹿をやる」とは個人的な後の祭りの舌打ちにすぎず、評論家が国会を茶番劇と断罪すれば、議

「女蚤」キバル と腰を抱く一人 生みませぬ。裸男ナンジャ生ませぬか。△ハテ、のみ子をうまぬ やつじやナア

「ならず者国家」を公言する、それに追従する、あるいは長崎の痛ましい事件で罪を犯した少年の親を「市中引き回し」と公言して憚らない某政治

△印が落ちで「のみ込まぬ」の口合（洒落）になっている。これを「俄選」選者は「まことに出鱈目の趣向」と、激賞している。

また、北陸・中部・九州での事例も多いが、徳島の阿波踊りにおいてもかつては俄が行われていた。阿波踊りには「狂踊り」といって、踊りの狂騒のなか、子供や女性まで俄を仕立て「体をやつし」たのである。女性の例には裸体ないし相撲取りの仮装がある。阿波藩はこの種の「異

「ならず者国家」を公言する、それに追従する、あるいは長崎の痛ましい事件で罪を犯した少年の親を「市中引き回し」と公言して憚らない某政治

家たちの「正義」はこうした愚の自覚とは程遠い。振り返って、かくいう私どもはどうか。「笑い」は大方テレビになっってしまった。それも大方一人で見ると放送用語規制が布かれ、タレントの内輪話に終始する笑いにナンセンスも社会性もない。「一億総白痴化」と大宅壮一が喝破して「一億総評論家」という標語も出、以来随分時が経ったが、この痛烈な警句が今の現実において時代遅れだとは決していえないだろう。己れの愚は多少なりとも識っているが、他者の愚により敏感で、「馬鹿をやる」とは個人的な後の祭りの舌打ちにすぎず、評論家が国会を茶番劇と断罪すれば、議



『絵本あつめ草』（国会図書館蔵）より

員を選んだ我が身のこととはさておき、その通りとうなづくのである。かつての俄の盛行を、娯楽の少ない、テレビもない時代だからというのはやさしい。継承している人々を「好きだから」と一瞥するのもよろう。しかし、素朴で騒がしい集団の情熱が仕立てる「愚」には受け身でない笑いと解放があり、今を生きるものの表現がある。

司馬遼太郎「俄—浪華遊俠伝」の主人公石屋万吉は「我が一生は一場の俄のようなものだ」と波乱の人生を振り返っている。愚に徹し、功利攻略を卑しいとして拒んだ精神な極道の言である。

（さとうえり／高知女子大学教授）



子どもはレオナルド・ダ・ヴィンチの「モナ・リザ」を見てどう思うのだろうか。

私たち大人はどこかでこの絵に目にかかっている。題名が「モナ・リザ」であることも作者の名前も謎の微笑みのこともすでに知っている。目を閉じてみると、その顔その姿を脳に浮かべることさえできる。

しかし「モナ・リザ」を初めて見る人はこの絵をどう見るのだろうか。何の知識も情報もないままにこの絵を見るとき、人の目にはいったい何が映っているのだろうか。私たちに何かつてはそういう瞬間があった。子どものように無垢な目で、先入観

なく絵と出会う瞬間があったのだ。はじめて「モナ・リザ」を見た幼稚園児や小学生が、この絵に題名を付けた。この名作に、子どもたちがどんな題名を付けたのかをちょっと想像してみてほしい。

想像していただけただろうか？
では、子どもたちが実際に付けた題名のひとつを紹介しよう。
「手が痛い人」。

さてこの答えをどう受けとめたものだろうか。

「なるほど、子どもらしい見方だ」と、うなずいてもいい。「おやおや、顔の表情には注目しないの？ 変わっているなあ」と、首をかしげることのできる。「絵の見方を教えなくてはダメだ。モナ・リザの優雅と背景に描かれた自然の荒涼との対比に気づかそう」と、首を振る人もいるかもしれない。首の振り方、傾け方にはその人の美術に対する接し方が現

れている。

子どもは絵をどう見るのか。子どもには子どもなりの絵の見方があるはずだ。同様に大人にも大人なりの見方があり、ひとりひとり違っている。当然である。それぞれが持っている論理や考え方の傾向、感じ方の特性、知識の量と質、経験の度合い、関心の違いなどが絵の見方に反映するのだから。

手に注目することは、あながち特異な見方ではない。ましてや幼稚な見方ではない。試みに古い「美術手帖」をひもとけば、「絵の秘密」と題して柳亮の寄せた小論が目につく。「諸君！ 下図の手を充分にまず熟視されたい。何という美しい手だろう」という文章が始まるこのエッセーは

「モナ・リザ」の魅力の源泉をその微笑みではなく、「安らかな手の慈い」にあると指摘している。

さらに注目すべきは「痛い」という表現である。「痛い」という言葉

モナ・リザをどうみるか

子どもは



上野 行一

タッフの方々にもトークに参加していただき、〈まなざし方式〉の魅力

を体験していただいた。トークのあと、ボランティア・グループ櫻の会のメンバーから寄せられた「私たちの考えは間違っていないかった」という感想が印象的であった。兵庫では、新しく生まれ変わった兵庫県立美術館に県立高校の教師二百三十名が参加し、〈まなざし方式〉のファシリテーター十二名によるワーク・シヨップとレクチャーがおこなわれた。そのほか北海道から鹿児島まで全国各地の美術館や学校で実践が始められている。

〈まなざし方式〉は、美術作品をよく見てその意味を自分で創り出す「学習者（観衆）中心の理論」に基づいていて、〈参加〉〈体験〉〈協同〉という三つのおおきな特徴がある。これらはそれぞれ、双方向的な学び、

構築的な学び、協同的な学びを提供する。

〈まなざし方式〉は、ただ美術そのものを理解する鑑賞方法ではない。美術を通してこの社会を豊かに生きる力を育てようとしている。自分で作品の意味を考え、対話を通してみんなでそれを高めあっていく過程は、問題を発見しその解決に向かって思考・判断・表現する能動的な行動を促す。これは学校教育の場合、自ら学び自ら考える資質や能力としての「生きる力」の育成に直結する。このようにして感性が高まり、美術作品の理解を深めるだけでなく、「みる」「かんがえる」「はなす」「きく」「くらべる」「わかる」「わかりあう」という七つの力が育てられる。

そして何よりも大事なことは、〈まなざし方式〉による美術鑑賞が、子どもにも大人にもアートを見る楽しい経験をもたらしてくれることだ。

は、この顔の表情が微笑みではないことを意味する。セルフ・ポートレート作品の制作にあたって、モナ・リザに扮するため絵を細部まで検討したアーチストの森村泰昌も、モナ・リザは「微笑んでいない」と結論づけている。絵全体を覆う主調音としての揺らぎ漂う印象が、微笑みのもつざわめきの感覚に似かよっているため、それが微笑みと錯覚されてきただけだと解釈している。

微笑みという先入観が私たちの見方を狭めてしまった。「手が痛い人」という答えは、先入観を捨てて自分の目でこの絵を見ることの大切さを私たちに教えてくれる。

自分の目で見た印象、自分なりの解釈を語ることで、そしてそれがきっかけで対話が始まり、意見の交流がなされ、思いもかけない発見をみんなで見つけだしていくところにアートをみる醍醐味が生まれる。対話形式の美術鑑賞プログラム〈まなざし方式〉は、かつてニューヨーク近代美術館に勤務していたアメリカ・アレナスの考え方と方法をもとにし、日本の実態に合わせて筆者が考案したものである。

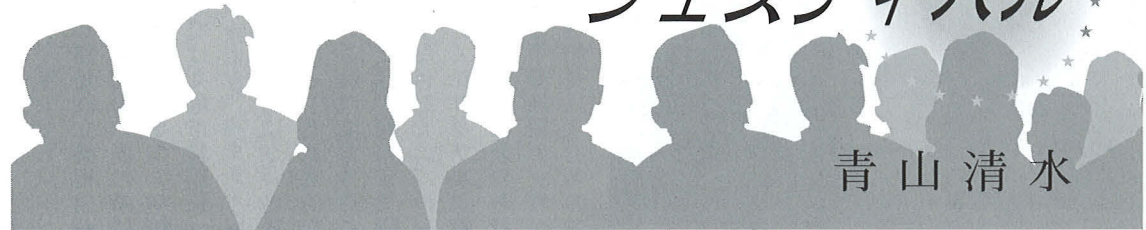
三年前から高知で仕掛け始めたが、幸いにも県教委をはじめ先生方、県

あらかじめ作品に付けられた説明を読むだけの受け身の鑑賞ではなく、その場で自分なりに作品を読み解いていく。その場で生まれたそれぞれの解釈を対話によって交流していく。他者の思いもかけない解釈を聞いては驚き、自分の解釈が受け入れられてはその喜びを知る。そのスリリングなおもしろさ。発見と驚き、共感と差異の受容そして喜びのドラマが繰り返される。そのとき観衆は、自分自身が見る主役となって鑑賞する満足感を感じることだろう。美術作品もきつとその瞬間を待っているにちがいない。

（うえのこういち／高知大学教授）



富士通コンコード・ジャズ フェスティバル



青山清水

十一月三日(月)文化の日に、高知市文化プラザで「富士通コンコード・ジャズ・フェスティバル・イン・ジャパン2003」グレート・アメリカン・ジャズ・オーケストラの公演が開催されます。

アメリカ、サンフランシスコの郊外にある小さな都市コンコード。そこに一九七三年、ジャズをこよなく愛する故カール・ジェファソン氏が「コンコード・ジャズ」というレコード会社を設立、コンサート会場「コンコード・パビリオン」を市に寄贈してコンコード・ジャズ・フェスティバルは始まりました。

そもそも私とコンコード・ジャズ・フェスティバルとの出会いは、一九八四年夏に遡ります。私のジャズの師匠であり、後に本フェスティバル日本公演のプロデューサーとなる、(株)オール・アートの石塚氏が、ジャズ歌手のアーネステイン・アンダーソンの日本ツアー契約のためにシアトルに向くのに同行。数日後にコンコードで開催される、このフェスティバルを見に行くという計画でした。偶然にも彼女がそれに出演予定ということで、招待を受け、そこで初めてカール・ジェファソン氏に出会ったのです。彼の自宅でのパーティーではモダン・ジャズ・カ

ルテット、レイ・ブラウン他多くの出演者達と交流。この体験が、日本でもコンコード・ジャズ・フェスティバルを開催しようというきっかけになりました。

話は戻りますが、コンコード・パビリオンというのは、丘の頂上であり、真ん中を掘り下げた前方に、ステージと屋根付き指定席、後方は芝生席になっています。昼間はピクニック気分です。夕暮れとともにステージは盛り上がり、バンド入れ替えの合間には、ドリンクバーへ行ったり、ロゴ入りのTシャツを買い求めたりと深夜までわきにわいています。夏とはいえ相当に冷え込んできますが、雨が少ない地域ならではの野外コンサート会場です。

日本には、残念ながらこういう施設がないので、屋内の音楽ホールを使用し、いわゆるお祭りのようなジャズ祭ではなく、質的にも高く、エンターテインメント性に富んだコンサートにしようということになりました。そして季節は秋に、協賛(株)富士通、その他多くの賛同者に支えられて、一九八六年に第一回富士通コンコード・ジャズ・フェスティバル・イン・ジャパンは誕生しました。アイデアマンの石塚プロデューサーの下、第三回からは私もディレクターとし



筆者(右)と故カール・ジェファソン氏

て日本公演に携わっています。

高知では第三回の一九八八年「メル・トローメ(ボーカル)&マーティ・ペイチ・オーケストラ」「J・ジョンソン(トロンボーン)クイントット」「レイ・ブラウン・トリオ」、八九年「トニー・ベネット(ボーカル)&ラルフ・シャロン・トリオ」「カウント・ベイシー・O.B.オーケストラ」「ハンク・ジョーンズ・トリオ」、九〇年「M・J・Q」「フランク・ウエス・オーケストラ」……。第十回の九五年までは県民文化ホール・オレンジで、九六年からは夜須町公民館に移って「秋吉敏子ジャズ・オーケストラ」、九七年「ヘレン・メリル(ボーカ

ル)&アート・ファーマー・クイントット」……と続いて昨年は、シカゴのボサノバ・グループ「スリー・フォー・ブラジル」。第三回から十八回まで欠かさず開催することができました。東京、大阪、名古屋につぐ多さです。地方都市でもジャズを支えてくれ、待っていてくれる人がたくさんいることを嬉しく思います。

さて今回出演のフランク・キャップ(ドラムス)は、七〇年代に「ジャガー・ノート」というビッグ・バンドで活躍していた貴重なミュージシャンです。現在アメリカでも、古き良き時代のビッグ・バンド・サウンドを再現するバンドはなくなりませんが、私達の要望で、彼のバン

ド・スコアで「A列車で行こう」「パリの四月」「レッツ・ダンス」「ムーンスライト・セレナーデ」「ビギン・ザ・ビギン」等、ビッグ・バンド・ヒット・ソングを演奏します。そして、スー・レイニー(ボーカル)もアメリカの古い歌を、ベテランの味で唄い上げてくれることでしょう。私達は、出来るだけ生の楽器の音を大切に、ホールの反響板を使い、最小限のマイク使用で、オーケストラの良さ、コンサートの楽しさを実感していただきたいと思っています。

最後に、こんなコンサート活動が出来る基礎となった私の店、ジャズ喫茶「アルテック」は昭和四十八年(一九七三)に開店しました。以来、渡辺貞夫カルテット、菅野邦彦トリオ、そしてアート・ペッパー、ミルトン・ジャクソン、ビル・エヴァンス、カーメン・マクレエ、アニタ・オデイ、クリス・コナー、ヘレン・メリル他百を超すコンサートが出来ました。

七七年五月に開催したアン・バートン(ボーカル)・ライブは、今年六月、二十五年ぶりにCD化されました。満三十年を迎えたアルテックにとつて、嬉しい出来事でした。音源は、当日、三十八センチ2トラックテープで録音したもので、写真も私が撮影したものが採用されましたので、機会があれば是非聴いてくだ

FREE Jazz Concerts in Concord!
Presented by Pavillon Associates
Sunday, July 29 - VIVA BRASIL
3-7p.m. • TR's Restaurant
Tue.-Sat., July 31-August 4 - AL MOLINO TRIO
9p.m.-1a.m. • Concord Hilton
Saturday, August 4 - MEL MARTIN QUARTET
12 noon-3p.m. • Salvia Pacheco Square
Sunday, August 5 - MARK LEVINE QUINTET
2-6p.m. • TR's Restaurant

MICHELOB 16th ANNUAL
CONCORD JAZZ FESTIVAL
CHRYSLER CONCERT SERIES AT CONCORD PAVILION

FRIDAY AUGUST 3 8:00PM
DAVE BRUBECK QUARTET
RON CARTER & JIM HALL
FRASER MacPHERSON/
ED BICKERT QUINTET WITH
DAVE McKENNA, STEVE WALLACE & JAKE HANNA
Reserved Seats \$12.75; Lawn \$8.75

SATURDAY AUGUST 4 8:00PM
MODERN JAZZ QUARTET
ROB McCONNELL &
THE BOSS BRASS
EMILY REMLER QUARTET WITH
JOHN D'EARTH, EDDIE GOMEZ & BOB MOSES
Reserved Seats \$14.75; Lawn \$8.75

SUNDAY AUGUST 5 7:00PM
TANIA MARIA
WITH HER BAND
TITO PUENTE
& THE LATIN ALL-STARS
ERNESTINE ANDERSON WITH
RAY BROWN, GENE HARRIS,
RED HOLLOWAY & JIMMIE SMITH
Reserved Seats \$12.75; Lawn \$8.75

THREE-DAY SEASON TICKET: Reserved \$36.50; Lawn \$22.50

CHARGE BY PHONE: (415) 67-MUSIC
(408) 998-2277 • (916) 395-2277

TICKETS: Civic Center Box Office, 2974 Salvia St., Concord. Also at Ticketron & BASS; Rainbow Records, Record Factory, Tower Records & Posters; Neil Thrans, Oakland; San Jose Box Office; all major ticket agencies. MAIL ORDERS: Jazz, P.O. Box 6166, Concord, CA 94524. Enclose self-addressed, stamped envelope with order. Please no cameras, bottles, cans or alcohol on grounds. No refunds or exchanges.

2000 KIRKER PASS ROAD, CONCORD



コンコードパビリオンでのジャズフェスティバル風景

『文検』試験問題の研究』が出版せられました。「文検」出身者の一人として、まずは慶祝の意を表したいと思えます。

「文検」というのは、「文部省師範学校中学校高等女学校教員検定試験」の略で、明治十八年（一八八五）に始まり、昭和二十三年（一九四八）に廃止されるまで、通算八十一回おこなわれた教員養成の国家試験であります。

本書は、その「文検」の試験問題についての共同研究をまとめたもので、東京大学名誉教授・桜美林大学大学院教授・教育学博士寺崎昌男氏を中心に、菅原亮芳・樽松かほる氏ら九人の方々が、「文検」研究会なるものを組織して進められたその成果結実であります。

これらの方々の多くは、すでに平成九年（一九九七）二月、『文検』の研究』なる一書を刊行せられておりますから、本書はいわばその続編をなすものです。発行所も同じ学文社（東京目黒）であります。

本書の特長は、今や完全に歴史の霧の中に埋没してしまっただけの旧制度一しかし、それは戦前の日本における最大規模の教員資格試験で、多くの志ある青年たちを引きつけた制度であったのですが、それをもう一度

掘り起こし、新しい光をあてた点にあると思えます。

内容は大きく「研究編」と「資料編」の二編に分類され、「研究編」では、「文検」論史を述べたあと、「英語」「数学」「歴史」「家事裁縫」「公民」などの試験問題の分析に主力を注いでいます。これが本書の根幹をなすもののようにあります。「資料編」では、これらの諸科目に

ります。

ただ寺崎博士らの要請に応じてインタビューを受け、土佐梁山泊のこころをお話した者として、あえて望蜀の思いをいわせてもらうならば、やはり一章を設けて「国語」について詳述、これを完成すべきであったと考えます。

「国語」は最大規模の受験生を集めた分野であり、「国漢八年」とい

『「文検」試験問題の研究』

を読んで

浜田 清次



ついでに試験問題例や、試験委員の略歴などがあげられています。

A5判五百四十ページ。なかなかの大作であります。前者『「文検」の研究』と相まって、『「文検」の全貌はほぼ明らかとなり、近代教育史研究の上に見事なモニメントを建立したと考えられます。寺崎博士以下関係諸家の労を多とする次第であ

われるほどに難しく、この難関を突破した人物の中には、山田孝雄博士をはじめ著名の士も多いのです。「国語」の章を完成できなかったことは、たいへん残念であります。

もっとも、これについては寺崎博士ご自身「あとがき」の中で述べられていたように、共同研究当初は決まっていた担当者が、私的事情のた

め中途で辞退するという特殊事情があったようですから、やむをえない仕儀であったと思えますすけれども、やはり残念であります。

しかし、そうした事情のたんにあつて、土佐梁山泊のことについて一項目を設け、約四ページにわたって解説して下さったことは、まことに有難いこととございます。別して土佐梁山泊の指導理念が、鹿持雅澄の「吾壘道」の教育を目指せというに

あつたことや、野市小学校に建てられた土佐梁山泊の碑の銘「研学への情熱と友情 梁山のいのちは永遠なり」にもふれて下さっていて、感佩の至りです。

ただここでもまた望蜀の思いをい

わせてもらうならば、恩師杉村正先生について、その業績に一言も二言もしてほしかったと思えます。杉村先生は、中村伝喜先生と並んで、ただに土佐梁山泊創始者の一人であつたばかりでなく、よく土佐梁山泊の道を確立した人物であります。先生は肺結核の宿病に苛まれながら、苦学力行、文検国語、漢文、さらに高検国語に合格し、教育道に尽瘁すること四十年、一世の師表として景仰せられました。和夫人もまた文検国語・高検を突破せられた才媛であります。こうした事例は、全国的に

もほとんど唯一のことではないでしょうか。

ともあれ、本書ここに成って、土

佐梁山泊も、南荒土佐の草莽から中央の舞台に進出したかのごとくであります。重ねて謝意を表します。

※土佐梁山泊とは、中村伝喜・杉村正の両先生が昭和三年五月創始せられた独学者の研学集団で、多く

の文検合格者を輩出、高知県教育のため大きな功績を残しました。（はまだきよつぐ／国文学者）

歌った、踊った、感動した！

ミュージカルワークショップの三日間

◆三日間で舞台に立つ

よさこい祭りも終わった八月十五日、一般公募の小学三年生から中学三年生までの五十二人が、かるぽーと小ホールに集まりました。二日間のワークショップの後、三日目にはかるぽーとの大ホールの舞台に立つという、ちょっと大変な催しです。

高知市では、子どもたちの豊かな人間性と多様な個性を育むことを目的に、年間を通じて日常生活の中で様々な文化にふれ、体験できるプログラムを提供する「高知市文化体験プログラム支援事業」を行っていています。これは、文化庁から助成を受けて、様々なジャンルのワークショップを年間十三日程度開催するもので、六月には美術分野の「美術体感イベント」あなたタピんチ ぱくピカ

ン」を開催しました。

今回のワークショップはこの事業の中の演劇・ミュージカル分野の催しで、昨年の国体こどもミュージカルでも活躍した田村千賀さんをはじめとする指導スタッフや音響、照明、衣装スタッフなどが一丸となってミュージカルを作り上げます。

◆台詞をくぐらぬ

最初の自己紹介から子どもたちの突っ込みで大人の役者があわてる場面もあり、和やかな雰囲気が始まったワークショップ。

練習時間は限られていますので、お芝居のあらかたの部分は四人の大人が担い、子どもたちは集団で演技することとなります。稽古がすむにつれ「台詞がないのはつまらない」という声があちこちから挙がり、結

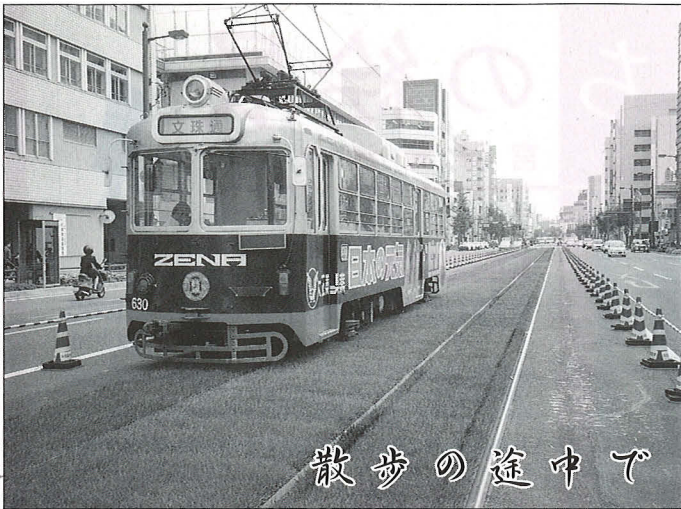
◆観客参加劇

局大人の台詞を少しずつ分解して、子どもたちの台詞としました。歌の練習、振付、衣装合わせなどを経て子どもたちの顔も少しずつ、舞台へ立つぞという気概に満ちてきました。今回のお芝居は「宇宙探検く火星からの贈り物」と題し、大空隊長率いるコスモパイロットたちが、悪野博士の一团の邪魔をはねのけ、火星にあるという「お利口石」を地球の子どもたちのために持ち帰ろうとするストーリー。優しい火星人の歓迎を受け、物語は大団円を迎えます。

本番前には、解説を聞きながらだんは見ることができない劇場の裏の部分を見学する「バックステージツアー」も実施。子どもたちは、舞台上の照明の仕組みや奈落（舞台の真下）などを興味深く見ていました。さて、今回のミュージカルは「観客参加劇」と銘打ち、観客もお芝居に参加できる工夫がされています。本番当日、土砂降りの悪天候にもかかわらず来場して下さった三百五

十人の親子連れは、入場の際、一人ひとりに手渡されたマーズグロープ（火星人の手袋）をはめて火星人になったり、誘導灯（サイリウム）暗闇で光る棒状のものを大きく振って宇宙船を誘導したりと、出演者と一緒にになってお芝居を盛り上げ、役者の子どもたちから「お利口石」をお土産にもらって帰りました。そして、終了式では、ワークショップに参加した子どもたち全員が「またやりたい」と輝く笑顔で手を挙げ、三日間の幕を下ろしました。（編集部）





散歩の途中で

土佐電鉄の「大橋通」-「高知城前」間で、軌道敷が緑化されている。電車通りで行われたよさこい祭り50周年記念パレードにあわせて施工されたのだそうだ。175メートルとほんの短い区間だが、残暑厳しい中で、あおあおと美しい芝が目をごませてくれる。もし、電車の軌道がすべて緑化されたら、素晴らしい景観になるだろうな……とは思ふものの、莫大な費用が必要だろう。せめて無粋なセーフティーコーンを外してもらえればいいのにな。

風俗

高知龍馬空港

観光化が原因の一つだろう。観光客を招致しようとして、却って高知を訪れる人のひんしゆくを買ってはいないか。

ケネディ空港やドゴール空港などを真似たのかも知れない。坂本龍馬が生きた時代は日本のことを憂えた人物がたくさんいて、龍馬にしても日本に誇れる土佐の英傑に違いない

観光でしか浮かぶ瀬がない高知であれば、大いに観光客を招致すべきなのだろうが、高知空港を龍馬空港の愛称で呼ぶことを喜ぶ高知への訪問客はどれだけのものだろうか。せいぜい苦笑するのが関の山ではないか。桂浜や龍河洞の例だけでなく、最近清流四万十川が清流では無くなってしまったのも

が、人の名前をつけることは日本人には馴染まない。しかも龍馬に対する人気や栄誉に力を借りようという、そもそもそうした考えが浅ましく思える。長年の経済至上主義ゆえに廃れてきた日本独自の文化の原点をいま考えてみる時かも知れない。それにしてもしリウマ、リウマと声を上げるのは経済関係の分野の人たちが多く、そうした声に為政者が耳を傾ける構造が問題ではないのか。そんなに龍馬が有り難いのであれば、いっそ龍馬県庁、龍馬市役所、龍馬駅、龍馬学校、龍馬病院、会社名も株式会社龍馬〇×と、徹底してみたらどうだろうか。考えただけおぞましいが、そこまですれば、自分たちの滑稽さに気づくには違いない。それでも気づかないようであれば、こうした意見を出す人々を取り巻くにして、その意見を受け入れるような為政者を選んだ自分を反省するしかない。(男郎花改め赤蜻蛉)



Original goods Artist goods Ticket

かるぽーとミュージアムショップでは、横山隆一記念まんが館オリジナルグッズをはじめ、県内で活動が続いている作家の作品展示・販売、県下の文化施設で行われる様々なイベントのチケットを取り扱っています。

〒780-8529 高知市九反田2-1
高知市文化プラザかるぽーと3階
Tel 088-883-5052
毎週月曜休業(祝休日の場合は営業)

今号の表紙

「葛かずら」 西森藤子
どんな荒地や 山の中でも 力強く繁殖するくずかずら。毛むくじゃらで どこまでも長く長く伸びて行くつら。ごはごはの葉っぱ。このかずらに花が咲くなどとはとても見へない。でも初秋になると大きな葉っぱの中から思いもかけないきれいな花が顔を出す。私の大好きな花のひとつ。今年も又この花に出逢えるのを楽しみにしている。(にしもりふじこ)



高知を撮る 大ワラジ祭 (平成14年 東津野村) 吉村文男

東津野村宮谷地区に伝わる伝統行事です。

第19回写真コンテスト入賞作品

最近、新聞の紙面や折り込み広告に、サプリメントのPRがやたらに目立つ。試みに、ここ数カ月間の折り込み広告から、サプリメント関連のものを拾い出してみると、ざっと数えて約六十種。猛烈な宣伝合戦である。テレビも負けてはいない。長短さまざまのCMが鏡を削っている。

サプリメント

風俗歳時記



このような大ブームを招来した源泉はなにか?

ほとんどの日本人はそれを意識していないけれど、アメリカから始まって、たちまちヨーロッパ先進国にひろまった、代替医療がブームの原動力である。

- ① 特定保健用食品 (略称トクホ)、② 栄養機能食品、③ 医薬品 (医薬部外品を含む)、④ 一般食品。
- ①は、唯一、効能の宣伝を許されているが、そのためには、人を対象にした科学的な試験データを提出して、厚生労働省の厳しい審査を受けなければならない。
- ②については、国は規格基準を作るだけで、審査はしない。
- ③は、薬事法に基づく商品で、食品とはいえない。普通は薬局で買うが、

で、①各国の伝統医学、②新しい医学体系(ホメオパシーなど)、③民間療法、④心身相関療法(アロマテラピーなど)、⑤各種健康食品に大別される。参考書「中村靖彦『食の世界にいま何が起きてるか』、上野圭一『代替医療』(朴)

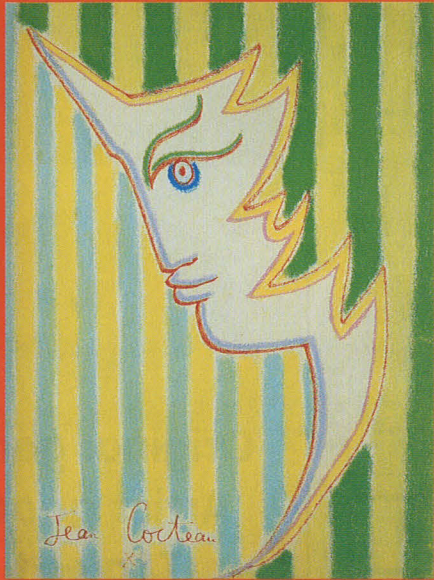
二日酔いなどに効く医薬部外品は、スーパーコンビニでも買えるようになった。健康食品市場は、二〇〇〇年に一兆三百億円に達し、二〇一〇年には三兆円を超えるとの予測さえある。

詩人たちの絵展

ヘルマン・ヘッセから 宮澤賢治まで



© 林風舎



ジャン・コクトー「緑と黄色のプロフィール」 池田20世紀美術館蔵

市民ギャラリー

9/2(火)~9/26(金) 10:00~18:00

ギャラリー休館日 8日、11日、12日、22日

宮澤賢治、高村光太郎、北原白秋、ヘルマン・ヘッセなど多彩な詩人たち15名による絵画作品100点余を集めた展覧会です。初々しい色彩感覚、ふしぎな想像力—詩人たちの魂の表現をご覧ください。

一般前売り ¥700(当日¥900) / 高校生 ¥500 / 小・中学生 ¥300

記念講演会 小ホール

窪島誠一郎(作家)「詩人が絵を描くとき」

9/15(月・祝) 14:00開演 全席自由 ¥1,000

ジョイントコンサート 小ホール

天満敦子「望郷のバラード」



9/21(日) 14:00開演 全席自由 ¥3,800

ウィーン・ ヴィルトウオーズ 高知公演



名実ともに世界一といわれるウィーンフィルの首席奏者たちによって結成された11名の、まさに「小さなウィーンフィル」。室内楽の究極の響きをお楽しみ下さい。

10/12(日) 19:00開演 **大ホール**

全席指定 S 席 ¥5,000
A 席 ¥4,000
バルコニー席 ¥3,000

富士通コンコード ジャズ フェスティバル 2003

ビッグバンド・ ヒットソング・パレード



ウエストコースト屈指のビッグバンド、フランク・キャップ・ジャガーノートにスペシャルゲストシンガーとしてスーレイニーを迎えた、スタンダードジャズの魅力あふれるコンサートです。

11/3(月・祝) 19:00開演 **大ホール**

全席指定 S 席 ¥6,000
A 席 ¥5,000
第2バルコニー席 ¥4,000
第3バルコニー席 ¥3,000
第4バルコニー席 ¥2,000



高知市文化プラザ

かるぽーと

〒780-8529 高知市九反田2番1号
http://www.bunkaplaza.or.jp

お問い合わせ:088-883-5071
電話予約:088-883-5073